

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	37		学校名		県立玉造工業高等学校					課程	全日制		学校長名		大塚 哲蔵			
教頭名	阿部 圭二												事務（室）長名		小林 武男			
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手		7	事務職員	3	技術職員等	5	計	58	
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	工業に関する学科			68	4							68	4	3				
	機械科					25	1	31	1			56	2	2				
	電気科					38	2	40	0			78	2	2				
	情報技術科					25	4	30	2			55	6	2				

2 目指す学校像

- ・ 至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能、技術を習得させる。
- ・ 地域社会で活躍できる工業人の育成を図る。
- ・ すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努める。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身につけた規律ある工業人の育成 ○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針	○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術を身につけさせる

別紙様式 1 (高)

(カリキュラム・ポリシー)	○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成 ○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む ○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒 ○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守り、安全な学校生活を送ることができる生徒 ○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教 務	基礎学力向上を図るため、数学Ⅰ・Ⅱで習熟度別授業、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱでは少人数授業を展開し、基礎学力の定着に努めている。また、授業へのICT機器の積極的な導入もあり少しずつではあるが基礎学力や学習意欲の向上につながっていると思われる。しかしながら、単位未修得の生徒数については昨年度と変化がなく、まだまだ基礎学力の向上、家庭学習の定着化が必要である。また、基本的な生活習慣が確立していない生徒が多く、保護者同席の欠課指導は10名を超える生徒がいる。	・今年度も習熟度授業や少人数授業を実施し、きめ細かな指導を行い基礎学力の向上と定着を目指す。また、オンライン学習ソフト「すらら」を導入し、家庭学習や振り返り学習など生徒の個に応じた学習支援を展開する。 ・学習内容の精選やICT機器、特に教育用タブレットPCの効果的な指導の工夫を図り、自ら学ぶ主体的な授業態度を育むとともに、対話的で深い学びに繋がる授業を展開する。 ・生徒に明確な進路目標を持たせたり、資格取得

		に向けた補講を行ったりすることで、学習に対する関心や意欲を向上されるとともに家庭での学習の習慣化を目指す。
生徒指導	昨年度の特別指導の件数は30件であり、内訳として1年生が17件、2年生が8件、3年生が5件であった。学年が上がるにつれて件数が減少傾向にあるため、一定の指導の成果はあると考えられる。特別指導の内容はSNS関連と喫煙関連の指導が増加傾向にあり、その問題行動の動機には「悪気が無かったこと」「面白いと思ったこと」など未熟さが垣間見える。交通では死亡事故や入院を余儀なくされるような事故の発生はないものの、軽微な事故の報告や近隣からのご指摘がある。 昨年のいじめの認知件数は2件であり、いずれもいじめ防止対策委員会にて組織的に判断して対応することができた。また、校内においていじめ問題理解に関する研修会を実施し、職員への周知を図った。	・生徒たちの未熟さや規範意識の低さが問題行動へとつながっているケースが増加していること。 →各種講話での啓発に加え、各HRでの日々の声かけ等を継続し、規範意識を定着させる必要がある。 ・死亡事故や入院を余儀なくされるような大きな事故はないものの、軽微な事故や近隣からのご指摘があること。 →原付バイク通学者への一斉指導、車両点検の実施、原付バイク安全運転教室の参加等により、安全意識を高める必要がある。 ・今後もいじめとして認知して対応する案件が増えたと予想されることから、組織的対応を継続する必要があること。 →職員のいじめ問題への理解を推進し、疑いのある案件については組織的対応をする環境をつくる必要がある。
進路指導	令和5年度の就職においては、学校長推薦による就職が60名、公務員1名、縁故・自営4名の計65名であった。また本校で受付した求人は、県内だけで680社、995件に達	・定期的に「求人管理システム」の管理企業と情報交換を行い、連携を強化することでシステムの安定的な運用、機能の向上、改善を図る。

	し、二年連続過去最高を記録した。二次募集や募集継続の案内も多く、前年度に引き続き、企業が高校生の採用を積極的に行っている状況が続いている。進学者数は大学 5 名、短大 1 名、専門学校 14 名の計 20 名が進学しており、進学者の 9 割が指定校推薦や公募推薦、総合型選抜（旧 AO）による合格であった。進学においても、前年度に引き続き多くの学校から指定校推薦をいただき、進学しやすい状況となっている。そのため今後数年は、就職、進学共に生徒の希望が通りやすい状況が続くと思われる。しかし、企業名だけで就職先を決めたり、とりあえず進学との考えで受験先を決めるなど、ミスマッチが起りやすくなっている。また就職や進学に対する意識が希薄な生徒も多く、そのため生徒が早い時期から進路を考え、社会生活を意識した学校生活を送れるように各学年と連携し、情報の共有、提供、発信を行っていく必要がある。 昨年度は、延べ 700 団体を超える企業や学校が本校に来校され、進路指導部としての負担が増えている。そのため進路業務のさらなる効率化や改善、削減を図る必要がある。	・日常的な進路業務の改善と日程の見直しを検討し、業務の効率化を図る。 ・進路ガイダンスや進路講話、企業説明会などを企画し、進路に対する早期意識づけやミスマッチの予防に努める。
保健厚生	コロナウィルス感染症対策が緩和されつつあるが、今後も注意を払っていく必要がある。また、近年は地震や大雨による自然災害や、様々な事故が見受けられる。各部署と連携し、様々な災害の対策について検討を行い、防災体制の確立と事態に備えた準備・訓練を行っていく必要がある。今後は、想	・新型コロナ感染防止を考えて校内の衛生面に注意を払う。 ・各部署との連絡を密にし、事故・災害に迅速に対応できる体制を維持する。 ・防災避難訓練を年に 2 回実施する。

別紙様式 1 (高)

	定される各種災害に対する防災体制の確立と防災マニュアルの見直しを図り、各訓練の内容をより効果的なものとしていく。また、多様化する生徒に伴い、特別な支援を要する生徒も増加傾向にある。今後、個に応じた支援ができる体制を維持していく必要がある。	・特別支援の充実を図る。学年・教科と連携し支援を必要とする生徒の早期発見と適切な支援を行う。 ・想定される各種災害に対する防災マニュアルを検討・作成する。
渉 外	生徒数減によりPTA役員を引き受ける保護者数も減っているため、今まで通りの選出方法・活動では役員側にも職員側にも大きな負担となってしまう。また、活動費の予算減、チャーターバスの採算など課題は多い。PTA活動は全国的に「できる人が、できるときに、できることを」という考え方に変化している。 現在、図書館の専門知識の少ない状態で取り組んでいるため、生徒への情報発信や運営全般において、より工夫が求められる。	・行事の参加者との意見交換の場を設け合意形成を図り、役員数・選出方法・活動内容を検討する。 ・広報誌発行は、予算の削減を視野に入れて紙面の作成を考える。 ・図書館業務については多くの職員に協力を仰ぎ、また他校の取組を参考にし、より良い運営を目指す。
特別活動	部活動については、各部活動顧問の工夫や努力の結果、部活動の継続率は高い。しかし、生徒の減少に伴い部活動数も減少してきている。(現在運動部8文化部1)学校の特性を活かし、部活動の精選をし、より主実した活動をしていきたい。 学校行事については、キャリア・パスポートを活用し、生徒が自発的・自主的に学校行事に参加できるように促す。また、学校ホームページを活用し本校の部活動や学校行事を積極的に校外へ発信する。	部活動については、部活動紹介の行い方を工夫し、部活動の加入率を上げ活性化を目指す。また、部活動顧問会議を定期的に開催し、連絡を密にして学校全体の部活動の継続率を上げたい。(年4回)さらに、ホームページを活用し、地域の方々に本校の活動を知っていただけるように工夫する。(毎月アップする) 学校行事については、新型コロナウイルス感染症も収束に向いていることから、可能な限り学年

別紙様式 1 (高)

		ごとから学校全体で行えるようにしていきたい。 また、キャリアパスポートを活用し、生徒達が自主的に参加できるように促す。
働き方改革	部活動の指導、資格・各種検定試験の指導、生徒・保護者対応、学校行事の運営など多くの業務を担当し時間外労働が多くなっている職員がいる。生徒数減少に伴い、クラス数が減ることで教職員数が少なくなる中、教職員一人一人の負担は増加し続けている。各校務の業務内容を明確化し、学校行事の簡素化や各種会議の効率化などが必要である。	学校の規模や専門性を考えた校務の精選を図ることで時間外労働の削減に取り組むとともに、仕事を分担できる環境、休暇を取得しやすい職場の雰囲気を醸成し職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図っていく。月平均 45 時間超過の割合を 10%未満、80 時間超過の割合を 0 %を目指す。

5 中期的目標

- ・基礎学力の向上を図る。
- ・ICT を活用した、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現
- ・基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。
- ・学校の教育活動全般をとおして、キャリア教育の充実を図る。
- ・部活動や特別活動を充実させる。
- ・地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。
- ・校務の改善、学校行事の見直しと職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
分かる授業の展開による基礎学力の向上と授業での ICT の効果的な活用を図る。	① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。 ② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。 ③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。

別紙様式 1 (高)

	④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。 ⑤ 資格取得指導の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。	⑦ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ⑧ 頭髪や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。 ⑨ 社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。 ⑩ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。 ⑪ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	⑫ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。 ⑬ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話などキャリア教育の充実を図る。 ⑭ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	⑮ 学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。 ⑯ 部活動加入率を高め、活性化を図る。 ⑰ 奉仕体験活動を充実させる。 ⑱ 生徒の委員会活動を活発にする。
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	⑲ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させ、入学者数の増進を図る。 ⑳ 小中学校への出前授業を行う。 ㉑ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。 ㉒ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。 ㉓ 個人情報の保護、管理の徹底に努める。
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	㉔ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。 ㉕ 安全で衛生的な環境作りに努める。 ㉖ 不測の事態に備え、防災意識を高める。
働き方改革の実現に向け、校務の改善、簡素化などの見直しに努める。	㉗ 校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。 ㉘ 校務の簡素化など見直しを行う。 ㉙ 会議の効率化を図る。 ㉚ 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。

別紙様式 1 (高)

キャリアパスポートに関するもの	㊸ キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。 ㊹ 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身につけさせる。
授業改善	㊺ 授業評価アンケート項目における肯定的評価の向上を図る（A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%以上 E60%未満） ㊻ 高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」C2～D2 を目指す。 ㊼ 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度（KPI）の平均値 3.6 以上を目指す。